

第7次豊川市総合計画策定 まちづくり市民ヒアリング 実施報告書



豊川市
令和6年12月

目 次

◆ まちづくり市民ヒアリング開催概要.....	3
1. 開催目的.....	3
2. 開催日程等.....	3
3. 委員名簿.....	4
◆ まちづくり市民ヒアリングの結果.....	5
基本目標①「しごとづくり」	5
基本目標②「ひとの流れづくり」	7
基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できる社会づくり」 .	9
基本目標④「安全で快適に暮らせるまちづくり」	11

◆ まちづくり市民ヒアリング開催概要

1. 開催目的

第7次豊川市総合計画の策定にあたり、人口減少対策に資する事業を位置付けている第2期豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策に係る自己評価の内容を、公共的団体から推薦された委員や市民公募による委員に説明し、今後のまちづくりの方向性について意見交換を行うため、まちづくり市民ヒアリングを開催した。

2. 開催日程等

回	開催日	テーマ
基本目標①「しごとづくり」		
1回目	10月25日(金)	施策(1) 創業・起業・販路開拓支援、新たなビジネスモデル構築などへの支援
2回目	10月31日(木)	施策(2) 就労促進、人材育成支援
3回目	11月12日(火)	施策(3) 農業・商業の活性化と経営・生産性向上の支援
基本目標②「ひとの流れづくり」		
1回目	10月28日(月)	施策(1) 企業立地・産業集積の推進
2回目	11月6日(水)	施策(2) 地域資源の活用推進
3回目	11月11日(月)	施策(3) シティセールス・観光の振興を核とした移住・交流等人口の拡大の推進
基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できる社会づくり」		
1回目	11月1日(金)	施策(1) 安心して出産し、子どもが健やかに育つための支援
2回目	11月8日(金)	施策(2) 保育サービス・子育て支援サービスの充実と子育てにやさしいまちづくり
3回目	11月15日(金)	施策(3) 共生のまちづくりの推進
基本目標④「安全で快適に暮らせるまちづくり」		
1回目	11月6日(水)	施策(1) 拠点間の連携・拠点周辺への都市機能集約と居住の促進
2回目	11月18日(月)	施策(2) 地域の安全・安心・高付加価値化の推進
3回目	11月21日(木)	施策(3) 地域マネジメントと民間活力の導入

3. 委員名簿

(敬称略・区分別 50 音順)

基本目標	氏名	所属団体等
① しごとづくり	岩瀬 俊介	ひまわり農業協同組合
	近藤 弘昭	豊川商工会議所
	鳥山 重文	愛知県商工会連合会音羽商工会
	井田 剛	市民公募委員
	渡辺 恒博	市民公募委員
② ひとの流れづくり	秋山 峰輝	豊川市観光協会
	富松 隆文	豊川市スポーツ協会
	藤本 剛司	豊川文化協会
	上野 友紀恵	市民公募委員
	内藤 克典	市民公募委員
③結婚・出産・子育ての希望を かなえ、誰もが活躍できる社 会づくり	田中 言羽	いちのみや子育て広場” にこ”
	中村 道代	豊川市障害者（児）団体連絡協議会 豊川市肢体不自由児（者）父母の会
	美馬 ゆきえ	豊川市老人クラブ連合会
	井上 亜里沙	総合計画審議会委員（市民公募）
	早津 小波	市民公募委員
④安全で快適に暮らせるまち づくり	岩瀬 崇典	豊川青年会議所
	神谷 典江	穂の国まちづくりネットワーク
	河合 誠	豊川ビジョンリサーチ
	大竹 美穂	総合計画審議会委員（市民公募）
	稲田 彩子	市民公募委員

◆ まちづくり市民ヒアリングの結果

基本目標①「しごとづくり」

【参加委員】



岩瀬 俊介	ひまわり農業協同組合
近藤 弘昭	豊川商工会議所
鳥山 重文	愛知県商工会連合会音羽商工会
井田 剛	市民公募委員
渡辺 恒博	市民公募委員

【主な意見】

施策（１） 創業・企業・販路開拓支援、新たなビジネスモデル構築などへの支援

- ・ 補助金事業の予算額が少なく、効果的な支援ができているか疑問である。効果検証で深掘りし、選択と集中による検討が必要である。
- ・ 展示会出展や販路拡大の補助金など、効果が明確に把握できるものは検証を深めたうえでの施策の展開が必要である。
- ・ 創業時の補助金は大いに役立っているため、その後のフォローアップを充実させ次の支援につなげる必要がある。
- ・ 豊川市は近隣市と比較して情報発信が苦手だと感じるため、メディアなどの活用により、色々な施策の周知に取り組む必要がある。
- ・ スタートアップ支援は、広域的に様々な主体と連携を深めていく方法が良いのではないかな。
- ・ スタートアップとの連携は、地域に根ざした小さなことからでも、まずは何かやってみることが重要である。
- ・ 企業のニーズは多岐にわたり、支援に興味を示されない場合もあるが、ニーズの移り変わりにより支援につながることもあるため、地道な周知活動を続けていくことも重要である。
- ・ 空き店舗の活用を進めるためには、創業希望者への支援だけでなく、貸主への支援も必要である。
- ・ 中心市街地の空き店舗の利活用は、店舗の郊外への広がりを抑えることでインフラ投資の縮小などにもつながるのではないかな。担当課だけでなく庁内各課が問題意識を持ち、連携して取組を進める必要がある。

施策（２） 就労促進、人材育成支援

- ・ 職業能力開発専門学院の研修について、研修参加による業務圧迫などが受講者の低下を引き起こしている状況ではあるが、他社の方と接して自社のことをより知ることができる、専門知識のある講師を招いた効果的・効率的な人材育成ができるなど、

実際に集まって研修を実施することに価値があるため、参加者増加につながるアプローチを中小企業へ行う必要がある。

- ・職業能力開発専門学院の研修がコロナ禍を機にeラーニングと競合している。特に若い世代は、自分で調べることに慣れているため、基礎だけ講義し、後の調べ方を学ぶような講座を展開してはどうか。
- ・豊川市へ移住するにあたり、補助金だけで今の仕事を辞める、子どもを転校させるなどは決心しづらいと思われるため、それを上回る市の魅力発信が重要である。
- ・首都圏人材確保支援事業について、他の施策の要素をトッピングするなど、庁内での横の連携をして取り組む必要がある。
- ・転職による転入者本人だけでなく、その家族への支援も実施してはどうか。
- ・豊川市には高校が6つある。地域技能者活用事業を豊川工科高校を対象に実施しているように、人材育成に取り組んだ若者が地元に残ってもらえるような取組を他の高校においても実施してはどうか。
- ・今の高校生は就職先選びにおいて職場体験での印象を重視しているようなので、企業の人材確保には会社を見てもらうことが重要。行政と商工会議所、地元企業が協力し、企業の特徴をPRする取組が必要である。

施策（３） 農業・商業の活性化と経営・生産性向上の支援

- ・新規就農者を育てることも大切だが、農業ができる環境、魅力的な作物があることをPRし、農業に興味がある人の目に留まるような工夫も必要である。
- ・新規就農者への支援だけでなく、頑張ってくれている農家の方が事業を維持したり、後継者を育てたりすることができる環境を整える取組も重要である。
- ・農業施策の何に力を入れたいかが見えない。オールマイティに対応するより、施設園芸に特化した支援を検討してはどうか。
- ・耕作放棄地の解消に向けて、商機と捉えて参入する企業が出てくるよう、市がコーディネートに取り組む必要がある。
- ・農業の担い手を市外から確保することも重要だが、地域の子どもに対して豊川市の農産物を知ってもらい作り手となることに興味を持ってもらえるよう、10年後20年後を見据えた取組も必要である。
- ・支援制度をつくるにあたり、国や県の施策を中心に考える傾向にあるが、制度を活用してほしい人の意見を直接聞き、制度設計へ反映させることが望ましい。
- ・人口減少が進む中、市が存続していくためには、外国人や若い世代の人に豊川市を好きになってもらうことが大事。そのためには、農業や都市計画をはじめ、様々な分野が連携して施策を考えることが重要である。
- ・様々な事業は現行制度や法令などに基づき、精一杯考えて取り組んでいるものだと実感しているが、内容によっては思い切ってやめる勇気も大事ではないか。
- ・行政として一通り満遍なくやらなければいけないことはあると思うが、それだけでは頑張る人には物足りないものになるので、特化、集中して支援する施策も重要である。

基本目標②「ひとの流れづくり」

【参加委員】



秋山 峰輝	豊川市観光協会
富松 隆文	豊川市スポーツ協会
藤本 剛司	豊川文化協会
上野 友紀恵	市民公募委員
内藤 克典	市民公募委員

【主な意見】

施策（１） 企業立地・産業集積の推進

- ・豊川市は再生エネルギーの面で遅れているため、業種を物流業や製造業に限定せず、幅広く誘致するような施策に取り組む必要がある。
- ・データセンターの地域分散の動きなどを踏まえ、製造業や物流業に特化せず、幅広く新しい産業を誘致する必要がある。
- ・豊川市は農地が多いため、豊かな土地を活用し、物流の拠点となることに加え、観光面でも人を呼び込むアグリパークを検討してはどうか。
- ・市内の専門学校に通っている外国人は、在学中は豊川市にいますが、就職すると豊橋市などに流れてしまう。その人たちが働きながら住みやすい環境が市内にあれば残ってくれると思うが、そうではない。企業を誘致して工場などの働く場所を確保するだけでなく、外国人も安心して定住できる環境づくりに取り組む必要がある。
- ・豊川稲荷は東京都など豊川市周辺以外の人には知られておらず、PRが不足している。
- ・近隣市のイベントは閑散としていたが、同日に開催された豊川市のイベントは人が集まっており、豊川市民はイベント好きだと感じた。これも市のPRポイントの1つである。
- ・豊川市で市内外の集客が見込めるような、大規模なライブやコンサートなどのイベントを実施してはどうか。

施策（２） 地域資源の活用推進

- ・合宿の補助は利用者から好評であるため、合宿のまちとしてPRをしてはどうか。
- ・美術部の合宿では、スケッチのために必ず観光場所を訪れるため、合宿の誘致は観光にもつながる施策である。
- ・スポーツ合宿は、チーム同士互いに行き来する関係にあるため、合宿に行く方へ向けた補助を検討してはどうか。
- ・昼間に利用されていないスポーツ施設を使って高齢者の運動の機会につなげること

で、もっと高齢者も元気になるのではないかな。

- ・全国的に防災×スポーツ、防災×まちづくりの取組がみられるため、まちづくりや魅力づくりにはかけあわせが重要である。
- ・豊川市の魅力の一つに駅が多いことがある。駅間も歩く距離としてちょうどよいと思うので、ウォークラリーの開催など、地域の魅力を生かしたまちづくりに取り組む必要がある。
- ・桜ヶ丘ミュージアムの茶室を多目的に活用してはどうか。例えば高齢者向けのコーヒーイベントやミニシアターを開催すると、茶室の活用から高齢者の外出機会の創出、認知症予防にもつながるし、隣接するミュージアムの利用など、様々なことと組み合わせるのではないかな。
- ・豊川市はシティブランドの発信が弱い。首都圏でのプロモーションや県外の道の駅でのポスター掲出など、人が集まる場所を活用し、もっと上手にPRする必要がある。
- ・豊川市で人気のあるいなりんを通じて豊川ブランドや豊川市の色々な資源を知ってもらうことが有効な手段だと思っているので、積極的に活用してほしい。

施策（３） シティセールス・観光の振興を核とした移住・交流等人口の拡大の推進

- ・イベントと宿泊先をセットにした取組は、移住に限らず、来てみたいと思っている人に豊川市を知ってもらう方法として有効と考える。
- ・市内各地区の街並みや雰囲気伝え、併せて田植え体験や工場見学などを展開し、市外からの来訪者だけでなく市民も参加できるような取組を実施してはどうか。
- ・大葉フェスに多くの人が集まったため、情報発信やイベント自体も、市民を巻き込んだ取組にできると良い。
- ・インバウンド対策は、単に来訪者の傾向からターゲットを設定するのではなく、戦略的にターゲットを設定し、様々な企業などと連携しながら実施することが重要である。
- ・花を生かした取組が必要である。バラ、桜を使った製品を開発してはどうか。また、その製品を新たな豊川ブランドとして打ち出していくことを検討してはどうか。
- ・シティセールスや観光資源の紹介がしっかりとできると、豊川市の良さが目に見えて分かるようになり、企業誘致でのPRにもなると感じた。また、休日に過ごせる場所やイベント、子育てに関するイベントなど、豊川市が住みやすくて子育てがしやすいまちということを伝えることで、企業誘致にもつながるのではないかな。
- ・市として市民の意見を聞く機会をつくっていると思うが、いきなり市民が集まって知らない人たちと意見を出し合うのは難しいので、そういう機会を増やしながら、市民もまちづくりに関わっていくという意識の変化を促す必要がある。
- ・中心市街地にもっとにぎわいをつくるのであれば、すべての課が手をつないで、市民も手をつないで、そこに人の流れをつくり、楽しくさせることにもっと集中的に取り組んでもらえると、豊川市民としては嬉しく思う。

基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できる社会づくり」

【参加委員】



田中 言羽	いちのみや子育て広場” にこ”
中村 道代	豊川市障害者（児）団体連絡協議会 豊川市肢体不自由児（者）父母の会
美馬 ゆきえ	豊川市老人クラブ連合会
井上 亜里沙	総合計画審議会委員（市民公募）
早津 小波	市民公募委員

【主な意見】

施策（１） 安心して出産し、子どもが健やかに育つための支援

- ・市内に出産する病院がほぼ無く、不妊治療も市外に行かないと出来ない。出産への不安の軽減のために、市内で産み育てられるよう、不妊治療の専門医や、医療機関との連携が必要である。
- ・買い物などのついでに寄れるような分かりやすい場所に子どもを預かってもらえるような相談窓口があれば、育児のちょっとした相談ができ、切れ目のないサポートにつながるのではないかな。
- ・障害児への支援サービスはあるが、受け入れ数が少ない。母親の負担軽減のため、小さいうちの大変なときから障害児を受け入れる体制が必要である。
- ・地域ボランティアのなり手が少ない中で、ボランティア活動に興味がある人や団体とつながるために、コーディネーターが必要である。
- ・ボランティアやコーディネーター等を受け入れない町内会もあるため、受入に向けた行政による手引きが必要である。
- ・まちづくりコーディネーターの講習に参加した際、高齢者や町内のことに重きを置く人が多かったが、子ども、若者にも目を向けて実施してほしい。
- ・地域で保護者を支えていくため、主任児童委員に頼れると良い。何かあれば、主任児童委員から保健センターや行政につなぐこともできる。主任児童委員が認知されていないため、周知してほしい。
- ・子ども食堂や不登校の子どものための居場所など、なかなか情報が無く、困っている方が多い。地域資源に関する情報をインターネットで発信してほしい。

施策（２） 保育サービス・子育て支援サービスの充実と子育てにやさしいまちづくり

- ・保育に関する制度が複雑であるがゆえに、理解できないまま制度を活用できず、職業選択に悩む人もいる。担当課へ相談に行くにも、制度の活用を希望する人は、市

役所の窓口に行く時間がないため、各保育園に相談窓口を設置したり、相談用のアプリを提供したりするなど、気軽に相談できる仕組みが必要である。

- ・中学生までは学校で不登校支援があるが、高校生は学校を辞めると、支援や居場所がなくなる。不登校の子どもが心配で仕事を休職、退職する保護者もいるため、居場所づくりや学習のやり直しなど、不登校やひきこもり、子ども、若者への支援にも目を向けてほしい。
- ・行政や学校に子育て支援の責任転嫁をするのではなく、家庭と学校、行政、地域が一緒になって、子どもたちが育つ良い環境をつくるためにどう取り組むか考えていく必要がある。
- ・お母さんたちはベビーカーや子どもを抱っこして移動するので、歩いて行ける距離に集まれる場所があることが重要である。
- ・主任児童委員を知らない先生がおり、地域と学校、行政との連携が十分進んでないのではないかと。今ある人材を活用するためにも主任児童委員の存在を周知する必要がある。

施策（３） 共生のまちづくりの推進

- ・障害者の就労支援について、働き方改革により様々な就労形態が増えている中で、他市町村では２～３時間程度の超短時間就労に向けた取組が行われているが、豊川市にはまだその支援が無い。障害者が自立した生活を送るために、そのような支援が必要ではないか。
- ・地区市民館を軸とし、子ども、若者の居場所でありつつも、館長等を通して学校、行政とも連携を図ることで、子ども、若者が取り組みたいことが実現できるような形になれば、地域の共生に向けて既存の施設をより効果的に活用できるのではないかと。
- ・地区市民館が閉鎖的であるため、もう少し開放的にすることで、外国籍児童や高齢者などの多様な人々が集まり、勉強を教え合うなど、良い化学反応が起きるのではないかと。
- ・乳幼児から小中高生まで含めて、学習支援だけでなく、生活面やメンタル面についても市全体で見守り、子育てしやすいまちにすることで人口の増加につながるのではないかと。
- ・子育てを中心軸にし、帰ってきやすい場所をつくることで、生まれ育ってよかったと感じ、一度市外に出ても戻ってきってくれるのではないかと。
- ・障害がある人も、特別ではなく当たり前、みんなと一緒に行事に参加できるようにまちになってほしい。

基本目標④「安全で快適に暮らせるまちづくり」

【参加委員】



岩瀬 崇典	豊川青年会議所
神谷 典江	穂の国まちづくりネットワーク
河合 誠	豊川ビジョンリサーチ
大竹 美穂	総合計画審議会委員（市民公募）
稲田 彩子	市民公募委員

【主な意見】

施策（１） 拠点間の連携・拠点周辺への都市機能集約と居住の促進

- ・ 拠点地区定住促進事業と拠点地区への都市機能立地の促進について、ただPRするだけではなかなか事業が進まないと思うので、なぜ拠点にきてほしいのか、目的を明確にしてPRする必要があるのではないか。
- ・ 事業の効果が十分に出なかったことに対して、何が不十分だったのかを把握して、今後どのように取り組んでいくのか、さらに踏み込んだ検証・検討が必要である。
- ・ コンパクトシティの推進や拠点に人や機能を呼び込みたいのであれば、ホームページに情報を載せるだけでは市民には届かないので、自ら動いて民間事業者と連携し、民間事業者にもメリットのある方策を打ち出して、協力して取り組む必要がある。
- ・ 駅周辺を拠点としてコンパクトシティを推進していくのであれば、駅周辺で市民生活が成り立つような整備が必要である。
- ・ まちなかに住みながら、身近に農地や自然がある環境は豊川市の魅力だと思うので、その魅力を生かす取組を進める必要がある。
- ・ 公共交通機関等利用促進事業について、市内各地域に配置され、地域の課題を把握しているコミュニティソーシャルワーカーからも意見を聞いてはどうか。既存のものは上手に活用し、庁内他課と積極的に連携して、問題解決に取り組む必要がある。
- ・ 空家対策事業について、地域の見守りなども担う民生委員とも協力・連携して取り組んでほしい。
- ・ 共通の何かがあると地域のコミュニティはつくられると思うので、公園を整備する際に地域の方に意見を聞くなど、コミュニティをつくることにもつながるような取組を行ってほしい。

施策（２） 地域の安全・安心・高付加価値化の推進

- ・ 道路標識などの日々の点検を、地域で見守り隊として活動している方々と連携してはどうか。会議などで出される要望だけでなく、日頃から活動している方にも協力してもらうことで、オール豊川の安全につながると思う。

- ・課題に対して行政だけで対応しようとすると思うので、市民や地域で活動している方に力を貸してもらえば、解決にもつながるし、力を貸してくれた方の生きがいにもつながるのではないかな。
- ・防犯カメラ設置事業について、町内会の取組に補助するものだが、町内会自体も人数が減ったり、制度を知らない人が多くなってきているので、件数の把握だけでなく、制度利用につながるようなサポートも必要になってくるのではないかな。
- ・交通安全に関する会議や防犯パトロールに関わってくれている方の高齢化が進んでいるので、若い世代の方にも関わってもらえるような取組が必要ではないかな。
- ・防災リーダー養成の取組について、大規模地震の発生が危ぶまれている中、養成した防災リーダーが活躍できるための取組が必要である。
- ・災害発生時に業務に従事することになる市役所職員が有事の際に対応できるよう、市職員に対する防災教育にも取り組む必要がある。
- ・密集市街地整備事業について、危険な塀を一定程度統一したものに変えるなど、まちの美観を保つ取組にもつなげられるとよい。
- ・パークアンドライドの推進について、大型商業施設との連携した取組を検討して、元気なとよかわを発信していく取組にもつなげてほしい。

施策（３） 地域マネジメントと民間活力の導入

- ・農福連携の取組に公園の活用も一体的に行うような事業ができるとよい。
- ・小さい子どもが遊べる公園は多いが、年齢が上がるにつれて遊べる公園が少なくなる。実際に遊ぶ子どもたちの声や、小・中学生を持つ親の意見を取り入れた公園づくりを進めてもらいたい。
- ・公園は地域共創のプラットフォームだと思うので、担当課だけでなく、防災や景観、子育て、保育、産業振興、観光振興などにも着目した、庁内各課が連携したパークマネジメントを進める必要がある。
- ・公園の利活用を通じた“ひと中心のまちづくり”を進める必要がある。
- ・令和５年６月の大雨災害の際、ドローンを活用して被害状況などを発信したことで、市民はとても分かりやすかった。他の分野でも、ドローンを活用してまちづくりの取組を発信することで、市民に伝わるのではないかな。
- ・マイナンバーカードの利用価値を高めるような取組を、国の動きに合わせるだけでなく、庁内各課の連携を通じて市から生み出してほしい。
- ・本庁舎の建替えや一宮地区公共施設再編の取組について、未来に負債として残るようなものではなく、それぞれの時代にあった使い方ができるような建物として整備する必要がある。
- ・ハード整備などは、造ることを目的とするのではなく、造ることでどのように市民の暮らしやすいまちになるのかを明確に打ち出して取り組む必要がある。
- ・今後の自治体経営には市民協働が不可欠。プロデュース力のあるコーディネーターを行政の中で育てていく必要がある。
- ・行政の計画を作る時などは、実際に困っている方や、声を届けにくい方からの意見も拾い上げるようにして取り組んでほしい。